

4. 外部評価委員による評価

外部評価委員による評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会が点検及び評価を実施するにあたり、教育に関し学識を有するものの知見の活用を図ることが定められ、今年度は下記の方々より、この報告書に対する評価をいただきました。

外部評価委員（敬称略・50音順）

中野 克也 【元河内長野市立三日市小学校長】

藤原 秀一郎 【河内長野市PTA連絡協議会 会長】

水谷 邦子 【東中学校区青少年健全育成会 相談役】

(1) 自己評価方法等について

- ・法に基づき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たす目的でこの点検・評価が行われていることは理解できる。教育目標達成のための取り組みや成果や次年度の取り組みはPDCAサイクルに則っているものと考えが、教育委員会が取り扱う諸事業、とりわけ学校教育や青少年の健全な育成等に関しての取り組みは、短期間に完遂することが困難なものが多く、取り組みや成果を、無理をして評価のテーブルに乗せ、3つの評価基準によって迷いながら評価しておられるように思えてならない。その一例として、学校教育においては、例えば「目標1 確かな学力の定着」など学校の基本中の基本のひとつとして学制以来営々と行われており、3つの基準を設けての4段階評価はどうしてもなじまないように思う。
- ・「今後の課題及び次年度以降の取り組み」についての記述が各課ともに抽象的なものも多く、次のステップとして何をするのか、1年後、数年後にはどんな姿になっているのか具体的な姿が見えてこないように思う。評価しづらいものがある。
- ・「河内長野市教育の現状」については、河内長野の教育を知る上で重要だと思うので、概要版など、もう少し見ただけで分かる資料等を活用し、もっと周知させた方がよい。
- ・「評価基準」のAで「他の重点目標に大きく貢献する手段」という表現が適当であるか疑問に思える。
- ・ほとんどの分野で評価が「B・B・B」であることが気になる。これはこの4段階では自己評価しにくいという表れではないだろうか。もっと細かな段階を設定することも視野に入れ、担当職員の率直な意見を聞くことも考えて欲しい。
- ・評価が重点目標15、16、21、24以外は前年度と同じである。またはコメントもほぼ同様である。内容を読み解くと新たに様々な取り組みを進めている分野もあり、それが評価として現れていないことを感じる。どうしても「評価」の欄が目につきやすいので前述のように“無難”に「B・B・B」になっているのではないだろうか。

(2) 取り組みについて

基本方針Ⅰ（重点目標1～重点目標6）

重点目標1 確かな学力の定着

- ・多くの教員が多忙の中、「学びの集団作り」のため学級経営に尽力し、わかる授業の展開、授業力の向上のため日々遅くまで取り組んでいることは認知が進んでいると感じる。自信をもつてのびのびと教育活動を行っていただきたい。
- ・「言葉きらめきフェスティバル」について、毎年盛況の上に実施されていると聞くが、豊かな言葉の力を育成する機会としての実施に関して、他の児童・生徒へのすそ野の広がりはどうなっているのか、

ぜひ検証されたい。

- ・「こどもだいじ」の中に「こどもの言葉 大人が手本」と提唱されているが、大人が豊かな言葉を使うための機運づくりなど、学校の外側から子どもの学びを支援する必要がある。
- ・言語力の育成が主体的・対話的な深い学びの実現のためには中核を担うものであるため、国語だけでなく様々な活動を通じて言語環境を整えて欲しい。
- ・これから性的マイノリティ等の事象が出てくる可能性もあるので、そういった問題も含めて、子どもだけでなく教職員にも対応できるような研修等を引き続き開いてほしいと思う。
- ・学校とかかわる中で教員の向上心は強く感じる。
- ・ICT機器の活用が謳われているが、実際にどの程度授業で使用されているか具体的な記載が欲しい。また教師の使用頻度にも個人差が予想される。効率性を考えるうえで必要な情報だと思われる。

重点目標 2 豊かな情操と道徳心の定着

- ・道徳の教科化については各学校で道徳教育推進教師を中心に取り組みが進んでいると聞く。豊かな情操や道徳心の定着には、家庭や地域の連携・協力は不可欠であろう。担当課以外の取り組みが重要になってくるように思う。
- ・学校、家庭、地域が一体となったとあるが、学校、家庭と地域との壁は感じる。
- ・道徳教育理解について年代により偏りが予想される。地域への道徳授業の公開は有効な手段であると思われる。また評価については困難な面もあろうが広く意見を聞きながら進めていただきたい。

重点目標 3 健やかな身体づくりの充実

- ・児童・生徒数の減少により、将来的にも中学校の部活動の活発化はこれまで通りとはいかない。部活動には様々な課題もあるが、生徒の成長にとっては計り知れない影響を与えるものであるから、教育行政、家庭、学校が創意工夫して活性化を図っていかれることを願う。
- ・始業前や休み時間の活用など、継続可能な運動時間の確保は評価できる。例えば運動場が使えないときは体育館や廊下などの使用という不断の実施が必要であろう。

重点目標 4 人権尊重の精神の涵養

- ・スクールカウンセラー、ハートフルアシスタント、スクールソーシャルワーカーや加配教員等による児童・生徒の「心の居場所」づくりに懸命に対応されている。命を守る活動としてこれからも充実を図ってほしい。
- ・「教育相談センター」の相談件数が少ないことが気になる。利用しやすいようなシステム、PR方法の再考が必要ではないだろうか。

重点目標 5 支援教育の充実

- ・河内長野市は支援教育の施策が他市に比べて充実していると聞く。財政削減の流れの中にあっても充実を期待する。
- ・「河内長野市の教育の現状」のP6～P7にある児童生徒数の推移の表に支援学級数のデータの掲載があればと思う。
- ・「サポートブックは一と」が幼児期からの一貫した支援につながることは子ども自身だけではなく関わり代わっていく支援者（教師等）にとっても有効であると評価できる。

重点目標 6 食に関する指導の充実

- ・子どもたちを取り巻く食の問題の深刻化に対しては、学校だけで対応することは困難である。家庭での食の充実を図らなければ、子どもの心身の健全な成長や基本的食生活の形成は難しい。
- ・学校給食は低予算の中で栄養をしっかりと考え、また河内長野産の食材を使うなどかなり努力されている

と思うのでこれからも続けて欲しい。

- ・日本の伝統行事食とともに河内長野の行事食（あかねこ餅など）も検討して欲しい。

基本方針Ⅱ（重点目標 7～重点目標 10）

重点目標 7 伝統・文化等に関する教育の推進

- ・河内長野市の地域の歴史、伝統を学ぶことは極めて大切なこと。各学校においてふるさと文化財課職員が行う出前授業はたいへん有効であり、これらの施策は生涯学習の理念実現の基礎となると思う。
- ・フィールドワークをとり入れた「ふるさと学」を実施して欲しい。子どもたちが学校で学び現地で感じた「ふるさと」を家族と共有することが期待できる。

重点目標 8 英語教育や ICT 環境等を活用した特色ある活動の充実

- ・ICTを活用した教育、NETを導入した英語教育は極めて先進的である。
- ・「中学校卒業時に英検 3 級程度の英語力を身に付けさせる」という目標について、具体的な手段を示してほしい。また、押しつけの目標ではなく、子どもたちが主体的に目標に取り組めることを大切に、数値としての結果にとらわれずに、しっかりとフォローして行ってほしい。
- ・英検 3 級程度の英語力について、市として一定の指針を示してほしい。
- ・NET教育による英語の授業は子どもたちも楽しんでいと思う。三日市小でやったモバイル英語村を見に行ったが、見ている方も楽しく、子どもたちに英語シャワーを浴びさせるにはいい取り組みだと思う。
- ・重点目標 8、9 の取り組みについては協働できる部分があると思われる。

重点目標 9 多文化共生への支援

- ・かつてと比較すると河内長野市も多文化共生が驚くほど進んでいる。小中学校でのNETの配置やKIFAとの交流による国際理解の授業など、今後とも充実させてほしい。

重点目標 10 歴史文化遺産の保存・継承と活用

- ・ふるさと歴史学習館事業は、教育立市宣言の宣言文にある「河内長野の伝統や文化を大切に、ふるさとや地域を愛する」市民を育成するための根幹をなすものと高く評価できる。今後も興味関心を呼ぶ企画展や多くの市民が参加する歴史講座の充実・開催を期待する。数値目標には慎重でなければならないが、この場合、例えば「企画展に 2,000 人の来場を目指す」や「ふるさと歴史館講座に 100 人の参加者を！」といった数値目標を設定し活性化をはかってもいいのではないかな。
- ・「子ども文化財解説」は、子ども自身が達成感を持ち、成長できる取り組みと評価できる。現在は限られた場所での取り組みだが、それぞれの地域での特色ある場所、建物などを掘り起こして「子ども地域案内」のように拡充することも期待したい。

基本方針Ⅲ（重点目標 11～重点目標 13）

重点目標 11 保幼小連携による幼児期の教育の充実

- ・文科省の幼児教育部会の審議取りまとめの中の「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」は義務教育のスタートラインであるので、この提言の市民への啓発に努めてほしい。
- ・保幼小連携は進んできていると思うが幼児期の終わりまでに育成しなければならないことはたくさんあると思うので保幼小また中までの連携をしっかりと、先生の育成や連携を密にして欲しい。
- ・「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」の実践検証がわかりやすく説明されている。また、保育所（園）、こども園、幼稚園が連携し相互理解を深めていく努力は評価できる。

重点目標 12 豊かな未来を築く力を育む小中一貫性のある指導体制の充実

- ・様々な施策で校種間の段差の解消に取り組み、小1プロブレムや中1ギャップを解消に取り組んでいることは高く評価できる。また、大学との連携、インターンシップの活用は、小中学校側の単なる人手不足

の解消になってはいないか注意しながらも、今後も充実させていただきたい。

・大学からの「インターンシップ・ボランティア」について実数が少ないように感じる。特に中学校での数が少ないが何か理由があるのだろうか。「ビッグブラザー・ビッグシスター」のように中学校でこそ大学生のインターンシップを積極的に受け入れて欲しい。

重点目標 13 多様な保育サービスの充実

・具体的なデータの記載で分かりやすく、評価できる。保育、特に病児保育については共働き世帯にとって非常に重要な支援であり「子育てしやすいまち」へとつながる。

・三日市幼稚園のあり方について検討をするということであるが、公立幼稚園は三日市幼稚園1園だけということもあるので、関係者の意見等も十分聞いたうえで、存続させることも十分考慮して検討を進めてもらいたい。

基本方針Ⅳ（重点目標 14～重点目標 19）

重点目標 14 家庭・地域との協働による学校づくりの推進

・学校運営協議会制度もほぼ10年を経て、安定した活動を行っていると思われる。今後は、市民の認知度を高め、義務教育や子育てに関心のある大人の参加・参画を図っていただきたい。

・コミュニティスクールを取り入れることで学校と地域が繋がるのは理解できるが、各校区他団体（健全育成会等）と同じような人選でコミュニティスクール本来の意味がなくなっているような気がする。

・学校運営協議会の会議の開催数が限定されているが、学校により諸事情も違っていると思われる。柔軟な姿勢を求めたい。また学校運営協議会と実行委員会の関係が曖昧に思われる。

重点目標 15 青少年の健全な成長を支援する体制づくり

・多忙を極める学校の教職員にとって、登下校時において通学路での見守り活動を行うのは困難である。「悪意ある大人の行為」の排除には、青パトや見守り隊の方々の存在は不可欠である。これからも十分な予算化等継続のための創意工夫を願う。

・内容が具体的、特に「青少年社会環境実態調査」は経過や結果が記載され評価できる。また潜在ひきこもり等の若者の掘り起こしや自立支援の取り組みに期待したい。

重点目標 16 子どもたちの放課後の育ちの保障

・放課後児童会の取り組みは、子どもの育ちにとって大事な事業である。担当課の努力を評価する。

・放課後児童会の適正な運営については、例えば週3勤務への対応や、夏休みなどの長期休暇のみの受け入れなど、現代の働き方にも対応した運営方法について、もう少し研究してはどうか。

・障がい児対応の加配をするなど評価できる。天見小学校の児童会がない説明が欲しい。

重点目標 17 家庭の教育力の向上

・日本の学校教育は、親となる教育が不十分であると言われるが、「親学習」をはじめとする家庭の教育力の向上を図る施策は高く評価できる。4段階の目標評価がなじまない事業ではあるが大切にしたい。

・「親学習」「親支援プログラム」の連携があってもいいのではないかと。

重点目標 18 地域総ぐるみで子どもを守り育む環境づくり

・「土曜学習事業」（楽習室）については見直しの時期ではないかと思われる。

重点目標 19 子育て支援事業の充実

・子育て支援についてはパパママ教室や親子教室、あいつくでの催し物など充実していると思う。

基本方針Ⅴ（重点目標 20～重点目標 21）

重点目標 20 安全・安心な学校施設整備の維持・充実

・限られた予算の中で着実に実施されている。ただ、どこかで発生した事故について点検改善の通知が国

府からあったからというのではなく、市教育委員会独自の視点と感性で子どもの安全安心を確保するよう警戒を怠らないでほしい。

- ・校舎以外の、例えば学校のブロック塀や敷地内の倉庫などの耐震化はどのようになっているのか気になる。
- ・災害時には避難所になり、今後は余裕教室などを地域コミュニティ等に活用とあるが、地域との連携のため強く期待する。子どもたちだけでなく地域の重要な施設としての学校であるべきと考える。
- ・昨年度の自然災害など影響など、なかなか計画通りに進まない状況だと思われる。子どもたちの安全と災害時に避難所となることを考えれば住民全員の安全のために確実に実施して欲しい。

重点目標 2 1 学校教育を支える教育環境の維持・充実

- ・小中学校図書整備事業において、ともに基準冊数を大きく上回っていることは高く評価できる。ただ、市内小学校において 36 ポイントの学校間格差がみられる。一方、中学校においても 52.8 ポイントの差がみられるので、学校間の格差の解消に尽力いただきたい。
- ・パソコン等の賃貸借による機器更新については、引き続き複数業者による入札を実施するなど、費用面での努力を続けていただき、スムーズに実施していただきたい。

基本方針 VI (重点目標 2 2 ~ 重点目標 2 7)

重点目標 2 2 文化活動の活性化

- ・第 2 期文化振興計画に基づく文化事業や、文化活動の普及への取り組みは評価できる。担当課と市民団体等との連携協力は十分であっても、そこから先の市民全体に届く手だてに工夫改善がなければ、「参加者や年齢層が固定している傾向」は変わらないと思う。
- ・第 6 3 回河内長野市文化祭において、ラプリーホールへの来場者は 8,810 名で市民全体の 8.4% であるが、開催期間中の全参加者の割合はどうか？ 励みとなる数値目標もよいのではないか。
- ・「アウトリーチ事業」は小学校 3 校にとどまっている。受け手側のスケジュール調整が困難なことも考えられるが、例えば同じ中学校へ行く小学校と一緒に開催するなど学校がスケジュール調整しやすい工夫を凝らし、できるだけ多くの小学校での開催が実現可能となるよう希望する。

重点目標 2 3 市民のニーズに応じた学びの機会・場の提供と市民の学習活動支援体制の充実

- ・生涯学習を個人の生きがいや自己実現にとどまらず、社会や地域に還元できることを図る理念は大いに評価できる。今後も担当課の事業を期待する。
- ・「くろまる塾での学びの成果を地域での実践につなげる仕組みづくり」の記述がある。「見える仕組み」に大いに期待したいし、担当課の強い思いを聞いてみたい気がする。

重点目標 2 4 スポーツ施設の充実と生涯スポーツ活動の推進

- ・施設設備の老朽化対策は人命にかかわる事案である。財政難の中、先延ばしにできないものとそうでないものの峻別の上、早急に具体的な対応を願う。
- ・総合体育館の指定管理者職員は、対応も丁寧で、簡単な修理・修繕などに素早い対応をしておられる。
- ・具体的な記載で分かりやすく評価できる。

重点目標 2 5 社会教育の推進

- ・河内長野のスポーツ施設は充実していると思う。
- ・本文にもあるが、利用の増加対策が急務である。子どもたちの教育とともに生涯スポーツができる河内長野を期待する。
- ・公民館が地域コミュニティの他団体や市民と連携していることがよくわかり評価したい。

重点目標 26 子どもたちや市民の読書活動の推進

- ・図書館や学校は連携して、あるいは独自に、子どもの読書推進に活動していることを評価したい。とりわけ図書館の行う「読書振興事業」はユニークで興味・関心を高める事業でさらなる充実を期待する。
- ・図書館の様々な取り組みや努力が読み取られ評価したい。また市内20校に対し学校図書館司書9名では不足と思われる。

重点目標 27 図書館や公民館図書室の充実

- ・公民館図書室、自動車文庫をもっとアピールし、更なる利用増加を目指したらどうか。
- ・具体的な内容で図書館の状況がよく理解でき評価できる。また『『図書館運営についてのアンケート』の実施と検証』の記載からも読み取れるように、利用者の意見を尊重し運営する姿勢を感じる。

(3)「平成30年度 河内長野市教育の現状」全体について

- ・教育に関する資料において、0歳児から5歳児までの年齢別の就学前の子どもの数を知りたい。将来的に学校等に関連する諸課題の共有には人口動態の把握は必要である。
- ・全体を通して前年度の評価結果と今年度とを比較して、記述内容も含めて大きな相違はないように思える。新規事業はふるさと文化財課の文化財災害復旧事業だけであり、説明責任を果たすのが目的とはいえ、継続事業がほとんどの中、無理をして毎年評価する必要があるのかと感じる。重点目標によっては数年に一度の評価で十分なものもありそうに思う。担当課が評価のために費やす時間と労力は少なくはないと思うので、評価結果を文章表記としたり、教育になじまないといわれる数値目標の設定も吟味の上効果的に導入して、簡便で職員の皆さんの励みとしてなるような評価が望ましいのではないかと。
- ・「河内長野の教育の現状」が職員全員にいきわたって課題が共有できていることを期待する。
- ・教育の現状については、まだまだ周りには知れていないと感じる。教育立市としてもっと市民に対して見せるべきだと思う。
- ・これからもっと教育に対する予算が削られると懸念するが子どもたちには色々な経験をさせたいので低予算でも貴重な体験ができるよう、市、学校、保護者、そして地域が一丸となり行動できるよう教育委員会発信のことも期待する。
- ・各重点目標を実施するために各担当部署がそれぞれに様々な事業を実施しているが、同様の内容が重複している感がある。全体を取りまとめたり、整理する何らかの役割・手段がないだろうか。
- ・市内の7中学校、13小学校はそれぞれ個性をもっている。「教育の現状」に報告されている押しなべてではなくそれぞれの独自の活動の一覧があっても良いのではないだろうか。環境整備だけ取り上げても様々である。それらの個を見ることにより全体の課題などが見えてくると思われる。「現状」は平均では決してない。
- ・子どもたちが主体的に活躍する場の紹介が少ないように思われた。もっと子どもたちの「生きる力」が見たい。